

### ③ 特例教科、キャリア・地域（体験）活動の再構築

#### 《特例教科の授業時数》

区 分		1 s t				2 n d			3 r d	
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
特 例 教 科	英会話	20	20	20	20	35	35	35	35	35
	うぶやま学	34	35	45	45	45	45	45	45	45
	チャレンジ学習	—	—	25	25	25	25	25	25	25

#### 《教科横断的な指導による資質・能力の育成》

- ・ 地域を基盤とした創造的な思考力の育成  
(主に「学ぶ力」)
  - ・ グローバル化に対応したコミュニケーション力の育成  
(主に「未来を拓く力」)
  - ・ 自律的な学びを支えるリテラシー・スキルの育成  
(主に「考える力」)
- 【うぶやま学】  
【生活科・社会科】  
【英会話科】  
【英語科】  
【チャレンジ学習】  
【国語科】

○教科等の枠組みを超えて教科横断的な視点で育成を目指す資質・能力の育成  
(「学習の基盤となる資質・能力」「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」)

#### 成果と課題

- 「カリキュラムの基本的な考え方（ステージ指導の概要）」による教育活動を展開したことで、学習や生活の基本的な力が身に付きつつある。
- 教科担任制・TT指導の充実、「授業のUD化」により、各教科等の見方・考え方を重視した授業づくりの意識が高まった。
- 特例教科、キャリア・地域（体験）活動の充実が図られた。また、これまで見落とされていた子供による多様な異学年交流ができた。
- 学習指導要領の全面実施をひかえ、プログラミング教育や特例教科「英会話」のカリキュラムでの位置づけを検討する必要がある。
- 「授業のUD化」の実践課題の解決を図りたい。特に、教科等の見方・考え方や単元ゴールの子供の姿を明示した学習指導（構想）案について検討を行う必要がある。